

カルメル 靈性センターニュース



2024年11月 413号

目次

目次	1
心の泉	2
カルメル会の企画案内	22
東京	23
京都	25
名古屋	29
諸所の企画案内	30
靈性センターニュース郵送終了のお知らせ	34

心の泉



ヤヌア・チェリ(宇治カルメル会修道院)



第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

第三章 しばしば聖体を拝領するのはよいことである

1 子

《おお主よ、ごらんください。あなたの賜物によって恵みを受けるため、また、「あなたの慈悲によって貧しい者のために備えられた」(詩編68・11)宴に喜び勇んであずかるために、私はあなたに近づきます。私の望み得るもの、望むべきものは、すべてあなたのうちにあります。あなたは私の救い、私のあがない、私の希望、私の力、私のほまれ、私の光栄です。「今日、あなたのしもべの心を喜ばせてください。なぜなら、主イエスよ、私はあなたに心を獻げたからです」(詩編86・4)。

今私は、あなたを信心と尊敬とをもって拝領したいと望みます。ザアカイのように、あなたに祝福され、アブラハムの子の一人に數えられるようになるために、あなたを、私の住まいに迎えたいのです(ルカ19・1-10参照)。私の魂はあなたのおんからだを待ち、私の心はあなたとの一致にあこがれています。

2 あなたなしには生きられない！

主よ、あなたご自身をお与えください。そうすれば、私は満ち足ります。あなた以外に真実の慰めはありません。私はあなたなしにはいられず、あなたの訪れなしには生きられない者です。ですから、私はしばしばあなたに近づいて、永遠の救いに必要な助けを受けるだけに、あなたを拝領しなければならないのです。この天の糧がなければ、私は、途中で倒れてしまうかもしれません。

あわれみ深いイエスよ、あなたは群衆に話し、さまざまな病気を治しておられた時、このように言されました。「私は彼らを飢えたまま帰らせたくない、おそらく途中で疲れ果てるだろう」(マタイ15・32)と。信者への慰めのために、秘跡においてご自身をのこされたあなたは、今、私に対してもそうしてください。あなたは靈魂の甘美な糧です。あなたをふさわしく拝領する者は、永遠の光栄にあずかり、その世継ぎとなるのです。罪に倒れ、すぐに衰え、力を落とす私には、しばしばの祈りとゆるしの秘跡と、そして聖なるおんからだの拝領とをもって、自分を新たにし、清め、燃え立たせる必要があります。長くあなたを受けずにいると、やがて自分の聖なる決心を忘れたしまうでしょう。

3 聖体の効果

「人の心の思いは、小さい時から悪にいざなわれやすいものです」(創世記8・21)。神の薬の助けがなければ、人は感覚によって大きな悪に傾いてしまいます。しかし、聖体拝領は人をその悪から遠ざけ、よい道を歩み続けるために励ましてくれます。

聖体拝領をおこない、またミサを獻げる今も、私はまだ義務を怠り、冷淡なのですから、その聖なる薬を服用せず、偉大な助けを求めなからず、私はどうなることでしょうか？私は、毎日ふさわしくミサを獻げる十分な準備がなくても、決められた時にこの聖なる神祕にあずかり、この恵みを受けられるように努力するつもりです。なぜなら、死すべきこの体を持ち、あなたから離れてこの世を旅する間の、忠実な靈魂の唯一の慰めは、しばしば神のことを考えて、愛するお方を敬虔に拝領すること以外にないからです。



来月、聖なる扉が開かれるまで、神の希望の力をよりよく体験できるよう準備するために祈りを強めて「祈りの偉大な価値と、個人生活・教会・世界における祈りの絶対的必要を再発見することに捧げた日々であるように。」(教皇フランシスコ)

自然界では 一番さやかなひな菊できえ
定められた時には花を開くことができるよう
四季が配置されています。同じように
すべては一人ひとりのためによいように 神さまは取り計らってくださいます。



～テレーズ～



一人ひとりのためにすべてを備えられる神への信頼を深めたいものです。
自分では理解できない出来事の背後にも、
父なる神の慈しみの愛を信頼して。 * 1



神の考えはあまりにも深く 人間の考えとは違います。
神の時を待つことを学びましょう。 ～三位一体のエリザベット～
夜明けが来れば、闇の世界だったところに道が現れます。
心配はいりません。「神の時」が来て、現れる険しい道を、主ご自身が、
私たちと一緒に歩んでくださいます。
主は、「私たちと共におられる神」——インマヌエルなのですから。 * 2

人生のタベには愛について とわれるでしょう。 ～十字架の聖ヨハネ～

ゆがんだ形の葉、成長しきれない小さな葉、虫食いの葉、どれも美
しいとは言えません。しかし、夏が終わり秋が来ると、どんな葉も
一様に色づき、太陽の光にかざされて、素晴らしい色の饗宴をくり
ひろげます。一人ひとりの人生の秋に神が待っておられるのは、神の
慈しみのしみの太陽に色づいた紅葉なのです。 * 3



11月は諸聖人の祝日でじまり、教会の典礼暦では年末・・・テレーズの「信頼の道」を歩み
つづけ新しい年を迎えることができますように。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

*1~3 : 『いのちの道 写真/文 伊従信子』 サンパウロ出版社

フランシスコ教皇の言葉 ⑦

わたしたちの使命は、先人たちが残した灰を保存することではありません。先人たちがともした火を燃え上がらせることです。

「先人たちが残した灰を保存すること」とは、何のことでしょうか。それは、いろいろ解釈できますが、形だけの信仰となることではないかと思われます。ファリサイ派的な信仰です。彼らは、律法を厳格に遵守し、人間の目には非の打ちどころのない義人（正しい人）、ユダヤ教徒に見えます。しかし、キリストは、イザヤの言葉で、彼らの偽善をただしました。

この民は口先ではわたしを敬うが、
その心はわたしから遠く離れている。
人間の戒めを教えとして教え、
むなしくわたしをあがめている。（マタ 15:8-9）

私たちは、自分の信仰が形だけの信仰となっていないか、信仰の火が燃え上がり、本当に聖霊のもたらす喜びと平和で満たされているのか、よくよく糾明すべきではないでしょうか。

（P. 九里）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（195）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

書簡から（3）

これらの難局において人々を助けることができるため、ヨハネ修士は、きわめて明晰で誠実な心で彼らに接することができる纖細さを持っていました。この点でも彼はすばらしい才能があることを示しました。礼儀正しさと大胆さは両立するのです。

聖人のすばらしい手紙の一つは、疑いもなく、1589年10月12日付のホアナ・デ・ペドラサ夫人への手紙でしょう。このかなり長い自筆書簡は、ヴァヤドリッドの町で、すなわち、跣足カルメル会修道女たちの中で見出されました。

この手紙は、手紙の受取人に対する親愛の情という点では模範的なものです。ヨハネ修士は、ホアナ夫人が自分は忘れられていると思っていることを赦しません。「あなたがおっしゃっているように思っていると考えると、私はとてもいらだってきます」。

この誤解を解き、ホアナ夫人の靈魂の靈的状態を深く識別した上で、対神徳をもとにしたより優れた生活のプログラムを提示しています。聖人となるための完璧なプログラムです。

健康についての知らせの最後に、「少し怒っていましたが、今はもういいです」と言っています。二三行前では率直に彼女にこう言っています。「何かあったならば、そのことを知らせるように。すぐに、そして時々私に手紙を書いてください」。

1589年1月28日の手紙では、また同じ受取人にこう言っています。「靈魂はかなり後戻りしていますが、私の健康は良い状態です。すべてを神にゆだねながら、ヨハネ修士や修道女たちへの手紙は、可能な時には、もっと頻繁に出すように。短すぎなければ、なお良いでしょう」。

(P. 九里訳)

年間 第31主日

(マルコ12:28b-34)

今日語られるみことばは、律法学者とイエスとの対話の場面になります。律法学者はイエスに対し「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」と尋ねます。そうするとイエスは、聖書の言葉—申命記の言葉をもって「第一の掟」としてお答えになられます。そして続けて「第二の掟」としてレビ記の言葉をもって律法学者にお答えになりました。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、神である主を愛する様にと言われただけでなく、隣人を自分のように愛しなさいと言われました。神を愛することそれはイスラエルの民にとって、当たり前といえば当たり前といったところでしょうか。

しかしイエスは、神との関わり、神との関係における「愛」を述べるだけではなく、人との関わり、人との関係における「愛」を述べて、隣人を自分のように愛することの大切さを語られました。人が自分を愛することは誰しも行っていることであり、そしてまた何よりも大切にしていることがらなのかも知れません。でも隣人を愛することは、簡単なように見えても思えても、実際には簡単なものではないことを、私たちは経験で知っているのではないでしょうか。

イエスが第一の掟、第二の掟について述べられ、この二つにまさる掟はほかにないと言われたことに、律法学者は「先生、おっしゃるとおりです。」と感嘆しただけでなく、イエスが言わされたことを繰返し述べ、それはどんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れていると、イエスが言わしたことについて、人前で補足して肯定した訳です。

その答えに対してイエスは「あなたは、神の国から遠くない」と言われ、適切な答えをした律法学者を称賛し、もはや、あえて質問する者はなかったと記されて終わりります。

どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも、神を愛し隣人を愛することは神の御心にかなうわけですが、現代を生きる私たちは、今をどのように生きているのでしょうか。私たちの間に、隣人とは誰か…という問い合わせ来るかも知れません。隣人でなければ愛さなくて良いのかということではありませんね。神を愛し、人を愛し、隣人を愛して歩んでゆく私たちでありたいと思います。自分の力では難しいと思っても、神に愛する力を願ってその力をいただいて、愛に生きることができますように。神の恵みと祝福が豊かにありますように。

(Fr. 古川利雅)

年間 第32主日（B）

(マルコ12：38-44)

「このやもめは、乏しい中から自分の持っている物をすべて、
生活費を全部入れた」

本日のマルコからの福音は、キリスト者はどのように生きてはいけないか、どのように生きるべきかの両面について語っています。律法学者は法律の専門家でした。彼らは、その利己的な行いを咎められました。貧しいやもめは、その寛大な気持ちを褒められました。私たちは、余分なものからも、必要なものからも与えるべきです。

イエスはいわれます、「律法学者に気をつけなさい。」彼らは信仰と宗教の点で欠けています。彼らは真理のことを知っていますが、それに従うことはありません。彼らは自分自身に有利なように、都合よく聖書を解釈します。彼らにとって憐れみは、人に褒められるための外的的なものです。これら全てのことが、私たちの憐れみとは何かと自分自身に問うように招いています。神とお金の関係はどうでしょうか？利己的な目的のために権力や地位得るために宗教を利用してはいせんか？働きのない信仰は死です。隣人に対する愛は真の愛の行いから成り立ちます。お金の真の価値は、愛と奉仕のためでなければなりません。神と他者との関係は、愛と奉仕に依っていなければなりません。神のために十分ということはありません。私たちが何をしても何を奉仕しても、心を込めて行う必要があります。

福音では、寛大なやもめについて述べています。この人は、神への完全な供えもののお手本です。見せかけではなく、自分を完全に神に捧げ、所有している全てを与えるやもめの中に無欲な信頼を見ます。彼女は神がよいもの全ての源であると知っているからです。彼女は自分を救うのはお金ではなく、神ご自身であると知っています。彼女は無条件に自分を神の手に置いています。そこでイエスは、皆が驚いたことに、「このやもめは持っているものから、生活費全てを与えた」と言わされました。

神が数えられるのは私たちの働きの大きさではなく、愛の無欲さ、気持ちの清さです。貧しいやもめは持っている全てを贈り物をして与え、イエスが行ったように行いました。それで彼女はイエスの前に偉大の者となり、私たち皆のお手本となりました。自分自身に尋ねてみましょう：私たちは神に十分に、完全に仕えるために持っているもの全てを犠牲にできるでしょうか？

(Sr. Pauline)

年間 第33主日（B年）

(マルコ13：24-32)

今日の福音箇所はマルコ13章、小默示録の箇所ですね。世の中も最近は以前にも増して物騒になってきました。前々から識者達が警鐘を鳴らしていましたが、いよいよ本格的に日本が壊れ始めてきたという感じでしょうか。今まで築いて来た日本の秩序が徐々に壊され、被害者は泣き寝入りという事件が多くなり、健全な、聖書的な意味での理想とする正義に則った法治国家が壊れて来ているように感じます。そろそろ本格的に政権交代してくれなければどうなってしまうのでしょうか。流石に私でさえそう思うようになっていました。

被害者が泣き寝入りしなければならないような正義の壊れた社会における弱者の叫び、被害者の叫びは、正義に則った社会が実現しますようにということでしょう。不当に奪われることのないように、悪を行ったものには正義に基づいた裁きがなされますようにということでしょう。

また創世記の始めから始めなければいけないということでしょうか。丁寧に造り上げて来た秩序が壊され、また無秩序、混沌に舞い戻っていくようですね。聖書的な無秩序、混沌は、いのちが生きられない状況、いのちの成長、喜びが阻害されてる環境です。このような中で聖書は始まりました。すべては混沌の中にありながら、いのちが傷付けられ、成長が阻害されているような環境の中で、いかにして神の声を聴けるかにかかっています。神の言葉を聞くことで、罪や死が支配しているように思われる状況の中に、光が生み出されます。今日、聖書は私たちを励まし続けています。

「はっきり言っておく。これらのことことがみな起こるまでは、この時代は決して滅びない。 天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。」(マルコ13:30-31)

(P.志村)

王であるキリスト（B）

（ヨハネ18：33b-37）

「わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。」

今年B年はマルコによる福音書を中心に読みましたが、年のはじめと終わりと5回の主日にはヨハネによる福音書を読み、今日は王であるキリストに関する箇所です。イエスは、ピラトから尋問を受けながらも、威厳ある王として堂々と立ち振る舞いながらその場を支配しています。

今日は典礼年の最終主日である王であるキリストの祭日です。この日は1925年にピオ11世によって制定されました。今日、キリストが王の中の王、主の中の主であり、被造物の唯一の主、すなわち全宇宙の王であると褒めたえます。

我が主は王ですが、この世の他の王様たちとは全く違います。城や豪邸といった豪華絢爛な場ではなく、赤ちゃんが誕生する場所としてふさわしくないベツレヘムの馬小屋という貧しさの中で生まれました。イエスは、この世では枕するところもなく、救いの福音を広める旅を続けました。「わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く」というイエスのピラトへの答えは、イエスが正義と真理によって統治することを意味します。真理について証しをする御方は、聖人と罪人、金持ちと貧しい人、また弱い人と強い人を区別なくあらゆる人のこころを、愛・いくしみ・あわれみ・正しさによって治めるために来られました。

王であるキリストを私たちの心の中心にお招きし、全身全霊でキリストを愛しましょう。愛情深い王にならい、真理と愛のうちにその後ろにつきしたがって歩めますように。

（Sr.Paulina）

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2024年9月30日

ウクライナで跣足カルメル在世会 会員の約束式



ウクライナのキエフにある跣足カルメル在世会の守護の天使共同体は、7月27日土曜日にお祝いの喜びのひと時を共に分かち合いました。聖靈のルドミラ夫人は、この共同体の付司祭である跣足カルメル修道会のヤナ・デュデック神父の前で約束を立てました。続いての聖体祭儀は、私たちの跣足カルメル修道会の女子修道院で行われ、跣足カルメル修道会の男子修道院、女子修道院と在世会の3つの枝の兄弟姉妹たちが一堂に会する祝福された機会を持つことができました。

多くの困難と侵攻中の戦争下にあるにもかかわらず、跣足カルメル在世会の共同体メンバー達は、会員の約束の重要な儀式と一緒に祝うために、この女子修道院に集まることができました。跣足カルメル修道会のこれら3つの枝のすべての代表者たちが共に集ったという事実は、彼らの団結と相互支援の姿を明確に表していました。

さらにこの集まりは、私たちにとって聖母マリアとカルメル会の諸聖人たちに倣う機会となり、相互のため、全世界のために、より深い奉獻の心をもって共に祈りに励む良い助けとなりました。

(訳・注: 小宮山延子)



いのちの言葉 11月

皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っているものをすべて、生活費を全部入れたからである。¹
(マルコによる福音書 12・44)

今月のみ言葉は、マルコによる福音書 12 章の終わりの一節から取られています。イエスはエルサレムの神殿で人々が賽銭箱にお金をいれる様子を見ておられます。イエスの目線でその光景を見ると、そこにはさまざまな人物が登場することに気づきます。神殿を行き来する人々、礼拝する人、長い衣をまとった高官もいれば、賽銭箱に多額のお金を投げ入れる金持ちもいます。

そこに一人の貧しいやもめがやって来ます。彼女は社会的にも経済的にも恵まれず社会の底辺に属し、彼女に注意を払う人はいません。そんな中、彼女はレプトン銅貨 2 枚を賽銭箱に投げ入れます。それに気づいたイエスはすぐに弟子たちを呼び寄せてこう言われます。

皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っているものをすべて、生活費を全部入れたからである

大切なことを語る時イエスはしばしば「はっきり言っておく…」と、前置きされます。イエスの視線はまっすぐ貧しいやもめに向けられ、わたしたちもイエスと同じ方向に目を向けるように促されます。なぜならこの女性こそ弟子たちの手本となる存在だからです。

神の愛への彼女の信仰は無条件です。彼女の宝は神自身です。彼女は自分のすべてを神に委ね、できる限りのことをして自分よりもっと貧しい人を助けたいと望みます。彼女の御父への全き信頼は、やがてご受難と死によってご自身を与え尽くすイエスの姿を予見するものです。そこに見るのは、イエスご自身が宣言され、実際に生きて証しされた「心の貧しさ」、「心の清さ」です。

『“心の貧しい人”とは、富に信頼することなく、神の愛とそのみ摂理に信頼を置く人のことです。…他の人を愛そうという姿勢で生きるとき私たちも又”心の貧しい人”となります。何かを必要としている人に、ある時には笑顔で、又ある時は自分の時間や持っている物、あるいは、自分に与えられた才能や技術を提供することもできるでしょう。いずれにせよ愛ゆえに持っているものを与える時、人は貧しく、無私になり、自由になり、清い心でいられるのです。』²

イエスの思いは、私たちの常識を完全に覆すものです。イエスの心の中には、小さな人、貧しい人、ないがしろにされている人の存在が常にあります。

皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っているものをすべて、生活費を全部入れたからである

このみ言葉は、神の愛に全面的な信頼を置くようわたしたちを招くとともに神のお考えに沿って自分が生きているかどうか反省を促すものです。外見で人を判断していないでしょうか？裁いてはいませんか？自分と異なる意見であっても尊重していますか？相手の長所を十分に評価しているでしょうか？

他の人に惜しみなく与えることは福音的な考え方です。こうして互いに相手を思いやる平和な共同体が築かれていきます。又たとえ、他の人が気づかなくても生活の中でみ言葉を生きることの大切さ、他の人に寛大であり又信頼を置くこと、さらに分かち合うことと慎ましさを教えてくれます。今月のみ言葉は、とくに私たちの注意を「最も小さい人」に向けさせ彼らから学ぶよう促してくれます。

ブルンジで生まれ育ったベナントがこう話してくれました。「私の家には農場があつていつも豊作でした。私の母はすべてが天からのみ摂理だと信じていたので毎年、収穫の時期になるとそれを最も貧しい家族から順番に、近所の人たちに配りました。わたしの家族のために残るのはわずかでしたが、私は母から他の人のために奉仕することを学びました。ある日、神さまが私にとって“最良のもの”を捧げるよう、まさに私の人生のすべてを神に捧げるよう私に求めておられることに気づきました。

皆は有り余る中から入れたが、この人は、乏しい中から自分の持っているものをすべて、生活費を全部入れたからである

レティツィア・マグリと「いのちの言葉」編纂チーム

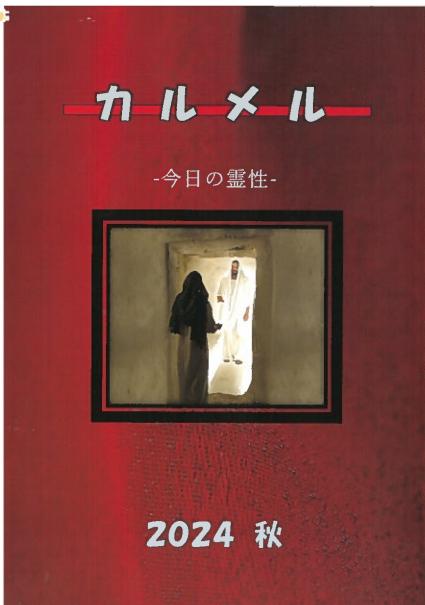
*いのちの言葉は聖書の言葉を默想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. 日本聖書協会『聖書 新共同訳』
2. キアラ・ルーピック、いのちの言葉 2003年11月

連絡先：フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com ホームページ：<https://www.focolare.org/japan/>

カルメル誌 新刊案内



2024年 秋号 No.394

カルメルの外のカルメル

—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(7) 鶴岡賀雄

旧約聖書から学ぶキリスト教靈性

—創造における神の想い、意図 志村 武

テレーズ列聖百周年に向けて

—レオニー 妹テレーズの「幼子の道」を行く(3)
伊従信子

陶器師の山暮らしの日々から

—ラウダート・シ=神のいのちへの道(3) 椿 権三

風に吹かれて再び(9)—貧しさと豊かさ 原 造

キリストの説かれた 幸いなる道(11) 九里 彰

靈的研究会講義録(25)—聖書・祈り・愛について

奥村一郎



2024年 四旬節特別号

「わたしたちを愛に導くのは信頼、ただ信頼だけです」(聖テレーズのメッセージ)

聖テレーズ生誕 150 周年記念 教皇
フランシスコ使徒的勧告「信頼」に導かれて

わたしは愛になりましょう

—愛の道を飛んでいくために 今泉 健

詩「むしられたバラ」より

—テレジアの愛の道 九里 彰

テレーズの信頼の道・小さい道と

ヤコブ・イスラエルにおける小さい道 志村 武

現代の闇を照らす灯火

—テレーズの進行の試練 片山 はるひ

小さな 偉大さ

伊従 信子

ご案内

1冊 580 円 A5 サイズ 50~70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580 円 (+送料 140 円) を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年 5 冊：春夏秋冬+特別号 計 3,600 円）を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跡足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

新刊紹介

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシェル神父の講話Ⅱ



Onoaki Katsue 著

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

教友社◎ 定価：1,650円(税込)

聖母マリアは、“イエスを愛し信じて生きるキリスト者の典型・模範”です（教会憲章53番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神祕をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシェル神父の講話Ⅱ

【出版社】 教友社

【著者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円 (税込)

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022年3月

判型: A5

ページ数: 184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薰陶を受けた信徒たちによって記録された講話が1冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学4年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハープに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて2年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハープによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシェル神父

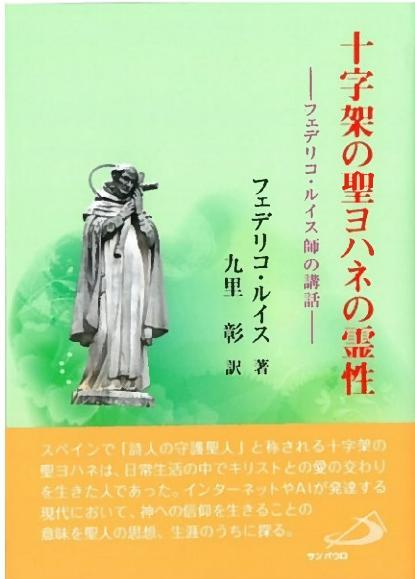
1921年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952年、司祭に叙階される。

1953年、来日。1956年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007年1月6日、月形町藤の園にて帰天(85歳)。



『十字架の聖ヨハネの靈性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・靈性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「靈性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、靈性を正しく理解することの基礎となっていました。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



愛と英知の道

—すべての人ための靈性神学—

ウイリアム・ジョンストン著

岡島 禮子 監訳
九里 彰 洋子 共訳
三好 洋子 渡辺 愛子 共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に辿り着いた著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した靈的生き道の道しるべ。「すべての人は、聖職階級に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（「教会憲章」39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたこと、「21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いいかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探求において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。

第一部 キリスト教の伝統	第1章 背景(1)
第二部 対話	第2章 背景(2)
第三部 現代の神秘的な旅	第3章 理性対神秘主義
	第4章 神秘主義と愛
	第5章 東方のキリスト教
	第6章 愛を通して生まれる英知
	第7章 科学と神秘科学
	第8章 修徳主義とアジア
	第9章 恨根的なエネギー
	第10章 英知と宇宙
	第11章 信仰の旅
	第12章 暗夜浄化の道
	第13章 花嫁と花婿
	第14章 愛のうちにある
	第15章 一花致へ
	第16章 知識と社会活動
	第17章 活動の神秘主義
	第18章 神秘主義
	第19章 神秘主義

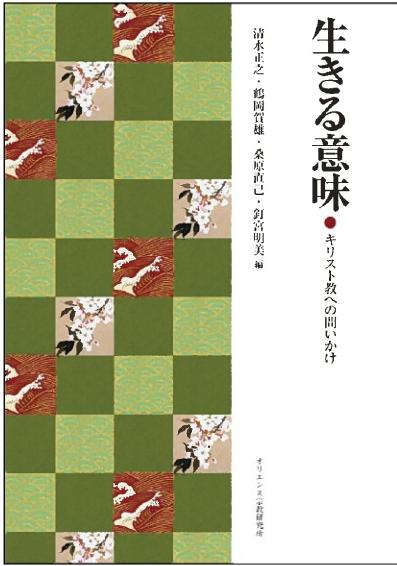
ウイリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエス会に入会し、26歳で米日。
32歳で司祭に叙階され、以後英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルベートマース・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した靈性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で歸天。



愛と英知の道

—すべての人ための靈性神学—
ウイリアム・ジョンストン著





書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——目次——

- 序 「生きる意味への問い合わせ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稻場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの靈性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による靈性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその靈性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



第2版
好評発売中！

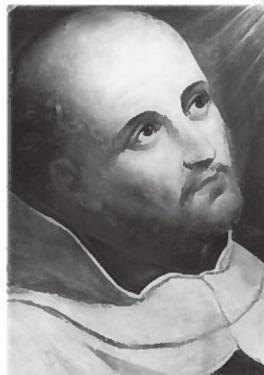
マリー=ユジエーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。（「はじめに」より）

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価540円(税込)

【聖母文庫】 287



神と親しく生きる いのりの道

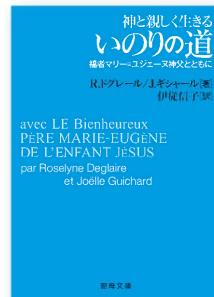
福者マリー=ユジエーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 [聖母文庫] 246

定価540円(税込) 209頁



わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー=ユジエーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

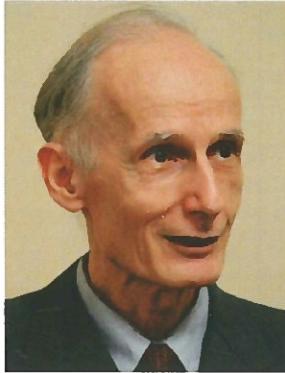
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 [聖母文庫] 268

定価648円(税込) 281頁



— ご注文・お問い合わせ先 —

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

ISBN

定価(本体+税)

第 1 巻	I 超越体験 一宗教論	9784862852151	3,800 円+税
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い合わせ」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理義と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p		
第 2 巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想	978-4862852175	4,600 円+税
	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p		
第 3 巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	9784862852205	5,000 円+税
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p		
第 4 巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	9784862852212	4,000 円+税
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問い合わせを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p		
第 5 巻	V 自己の解明 一根源への問い合わせと坐禅による実践	9784862852229	4,200 円+税
	信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問い合わせから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全35作、470p		

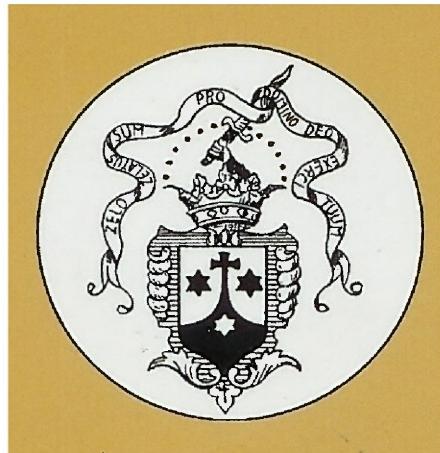
●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館 〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）



東京 上野毛 灵性センター

默想企画 * * 上野毛 聖テレジア修道院（默想）* *
(2024年4月~)

- ・聖書深読默想会（土曜日18時～日曜日16時） カルメル会士

2024年	11月9日～10日 中止
4月20日～21日	→11月30日～12月1日
5月25日～26日	2025年
7月27日～28日	1月11日～12日
9月28日～29日	3月15日～16日

- ・奉獻生活者のための默想会（初日17時～最終日朝食） カルメル会士

~~2024年8月16日（金）～25日（日）~~ **中止**
12月27日（金）～1月5日（日）

★教会の祈り（時課の祈り）を軸とした 黙想の場を提供いたします。

【ご利用に際して】

- ・介助やサポートなしで生活できる方、年齢は80歳までとさせていただきます。
- ・上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・E メール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(默想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

E メール : mokusou_kmng@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内

(2024年11月～2025年3月)

【一般のための黙想】 1泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時） 中川博道神父
5:30 サルヴェ・レジーナ（修道院）から開始

2024年

11月16日～17日

2025年

1月18日～19日 3月1日～2日

【聖書深読】（土曜午前10時～午後4時） 中川博道神父

2024年

11月30日

2025年

1月11日 3月15日

【水曜黙想会】（午前10時～午後4時） 中川博道神父

2024年

11月20日

2025年

1月22日 2月19日 3月19日

【カルメルの靈性】（午後5時～午後4時）

十字架の聖ヨハネ 12月21日（土）～22日（日）中川博道神父

【祈りの学校 入門編】（火曜 午前10時～午後4時） 松田浩一神父

2024年

11月12日 12月3日

追加 2025年

1月7日 2月4日 3月25日

【祈りの学校 教会の祈り】（木曜 午前10時～午後4時） 松田浩一神父

2024年

11月14日 12月19日

追加 2025年

1月23日 2月13日 3月20日

【奉獻生活者の黙想】(午後5時～午前9時)

2024年

12月27日(金)～1月5日(日) 中川博道神父(一般可)

2025年

3月4日(火)～13日(木) 中川博道神父(一般可)

【青年男女のための黙想会】(35歳以下) 松田浩一神父

追加2025年

3月22日(土)午後5時～23日(日)午後5時

(日曜日4時から女子カルメル会でミサの予定)

教皇文書：『信頼への道』

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備しておりますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

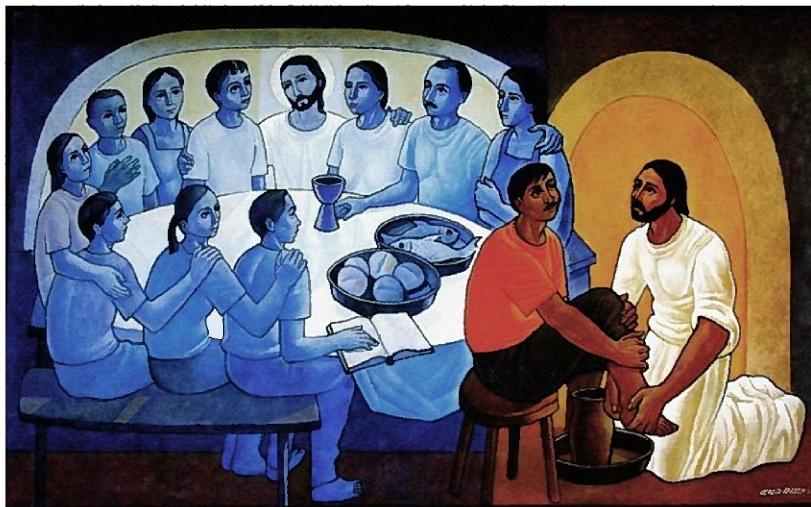
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「祈りの学校」(2025年1月-3月)

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



日時(カトリック教会の祈り)：1月7日(火) 2月4日(火)、3月25日(火)、

*日時(典礼憲章・啓示憲章)：1月23日(木)、2月13日(木)、

3月20日(木)、

いずれも、10時から16時まで

場所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

指導：松田浩一 神父（男子カルメル修道会）

持参するもの：ノート、筆記、ロザリオ（＊『教会の祈り』）

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-32-7457

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

カトリック教会 カルメル 青年たちの学び

リジューの聖テレーズの『信頼への道』

日 時：③ 2025 年 3 月 22 日（土）PM5 時～3 月 23 日（日）PM5 時
(尚、日曜日 4 時から女子カルメル会でミサの予定)



教皇文書：『信頼への道』



イエスのテレサ



リジューのテレーズ



十字架のヨハネ

教皇フランシスコは、現在起こっている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの思いを凌駕する神の思いとは何でしょう。人間の正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。教皇の著作からこのことを学ぶことに致しましょう。

場 所：宇治聖テレジア修道院（默想）

対 象：35 歳までの青年男女

参加費用：下記の E-メールか、FAX でご確認ください。

講話と同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会聖テレジア修道院（默想）

FAX : 0774-32-7457

Email : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

旧約聖書から学ぶキリスト教靈性
—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2024年11月16日（14：30～16：30）

サムエル記の全体構造とメッセージ①

その後の日程：12月21日

2025年1月18日、2月15日、3月15日

持ち物：必ず聖書（旧約+新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

静修の集い（名古屋日比野修道院）

2024年12月14日（土）10：00～15：00

講話担当司祭：志村武神父

テーマ：十字架の聖ヨハネの詩『暗夜』とアブラハムの信仰の深まり

【スケジュール】

10：00～10：20 はじめの祈り

10：30～11：30 講話①

11：30～12：00 ご聖体顯示、念祷

12：00～13：00 昼食（各自持参）

13：00～14：00 講話②、

14：10～ミサ、その後茶話会、解散（15：00頃）

持ち物：昼食（各自）

参加費：無料（自由献金をお願いいたします）

以降の日程：3月3日（今泉健神父）

諸所の企画案内



真命山 靈性交流センター
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2024年 - 祈りの集いのご案内

テーマ 真の幸せへの道 「…あなたがたは喜びで満たされる」 (ヨハネ 16. 24)

毎月第2木曜日 (10:00~15:00)
予約は前日の16:00まで

- 1月11日 「イエスは…群衆を見て、山に登られた」 (ソットコルノラ・フランコ神父)
2月 8日 「神よ…あなたのほかに しあわせはない」 (ソットコルノラ・フランコ神父)
3月14日 心の貧しい人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
4月11日 悲しむ人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
5月 9日 柔和な人々は、幸いである (Sr. マリア・デ・ジョルジ)
6月13日 義に飢え渴く人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
7月11日 憐れみ深い人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
8月 休み
9月12日 心の清い人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
10月10日 平和を実現する人々は、幸いである (Sr. マリア・デ・ジョルジ)
11月14日 義のために迫害される人々は、幸いである
(コデノッティ・クラウディオ神父)
12月12日 喜びなさい。大いに喜びなさい。 (コデノッティ・クラウディオ神父)



・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします (要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦
1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com
Tel:0968-85-3100
Fax:0968-85-3186

サダナ瞑想 ~東洋の瞑想とキリスト者の祈り~

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日 時	指導	開催場所	申込み
サダナ I	11/21(木)17:30～ 24(日)16:00	Fr. 植栗	カルメル修道会上野毛 修道院(世田谷区)	来間(くるま) 裕美子※ TEL: 090-5325-2518 sadhana12378@ yahoo.co.jp
広島 リピーターの会	2025年 1/11(土)9:00～ 13日(月・祝)16:00 ※通いも可能です	同上	西日本靈性センター (広島市麻安佐南区)	西日本靈性センター 受付デスク TEL : 082-239-0034
フォローアップ	1/19(日) 9:30～17:00	同上	シャルトル聖パウロ 修道女会九段修道院 (千代田区九段北)	来間(くるま) 裕美子※
名古屋 サダナ II *両方の週末に継 続参加が必要	1/25(土)9:30～ 26日(日)18:00 2/1(土)9:30～ 2(日)18:00	同上	聖靈会八事修道院 ミッショントンセンター (名古屋市昭和区)	攬上(かくあげ) 暁子 TEL : 050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
名古屋 サダナ II *両方の週末に継 続参加が必要	1/25(土)9:30～ 26日(日)18:00 2/1(土)9:30～ 2(日)18:00	同上	同上	同上
サダナ II	2/7(金)17:30～ 11日(火・祝)16:00	同上	都内施設 (受付にお問合せください)	来間(くるま) 裕美子※
サダナ I	2/21(金)17:30～ 24(月・祝)16:00	同上	同上	同上

※ショートメールは避けてください。申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は 090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナ I を終えていること。

●入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

今年は1月1日に、能登半島地震が起き、輪島市、珠洲市など、能登地方の人々は、家の倒壊、道路の地割れなど、甚大な被害を受けました。233名の方が亡くなられ、1175人が怪我をされ、1万5309人が今なお避難生活を余儀なくされています(1月23日現在)。一日も早く平穏な生活に戻れるよう、心からお祈りしたいと思います。

今年度の「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。今まで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道——すべての人のための靈性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所:イグナチオ教会岐部ホール 404号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩1分)

時間:11月14日(木) 13:30から

W・ジョンストン著『愛と英知の道』の88頁8行目から

主催:慈しみ深き会

指導:九里 彰くのり神父(カルメル修道会)

* 参加費無料(献金歓迎)

*問い合わせ先:042-473-6287 篠原(11:00~20:00)

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
2023年12月号も以て、冊子の発行を終了致します。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さい様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご活用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

